

平成31年度全国学力・学習状況調査について

令和元年9月27日 大仙市教育委員会

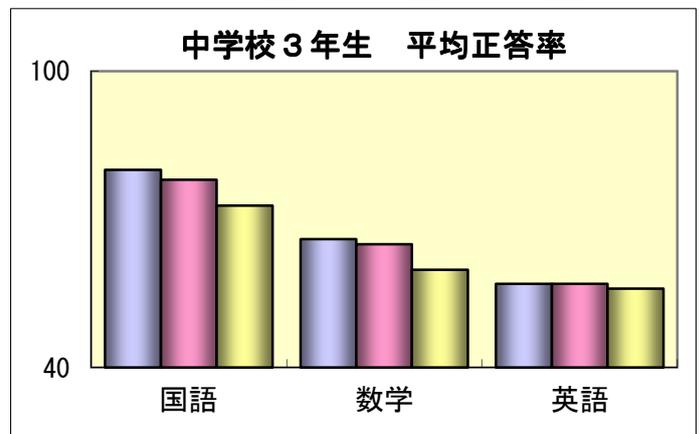
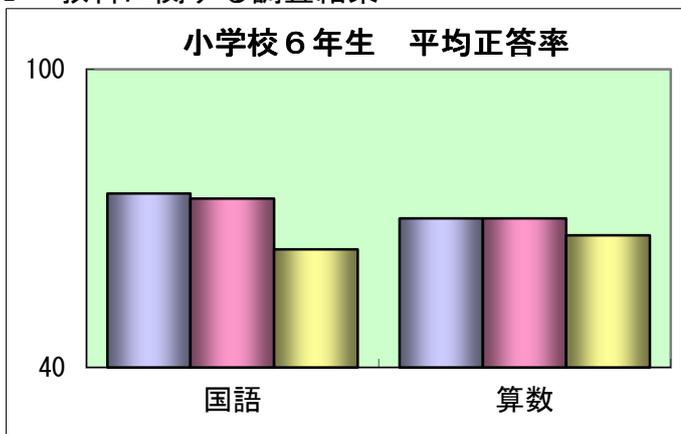
平成31年度 実施状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校6年生、中学校3年生
- 3 実施教科 国語、算数・数学、英語
- 4 調査内容
 - ①教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）
知識・技能等に関する問題と活用する力等に関する問題
 - ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査
- 5 実施方式 悉皆調査
- 6 実施期日 平成31年4月18日（木）
- 7 調査対象

全国（国公立）小学校	19,600校（実施率 99.3%）
秋田県公立小学校	196校（実施率 100.0%）
全国（国公立）中学校	10,409校（実施率 95.6%）
秋田県公立中学校	115校（実施率 100.0%）

I 教科に関する調査結果

■ 大仙市 ■ 秋田県 ■ 全国



○小・中学校ともに、全ての教科が、本県の平均正答率と同程度か上回っていることから、良好な状況にあるが、観点別、領域別、問題形式別等にみると課題もみられる。

〈教科に関する調査について〉

○小学校

- ・国語…全国、県の平均正答率と比較し顕著な差が見られる領域及び評価の観点は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「言語についての知識・理解・技能」であった。しかし、「国語への関心・意欲・態度」と「書く能力」はともに県平均を下回っている。
- ・算数…同様に顕著な差が見られる評価の観点は「数量や図形についての知識・理解」であった。しかし、「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」はともに県平均を下回っている。

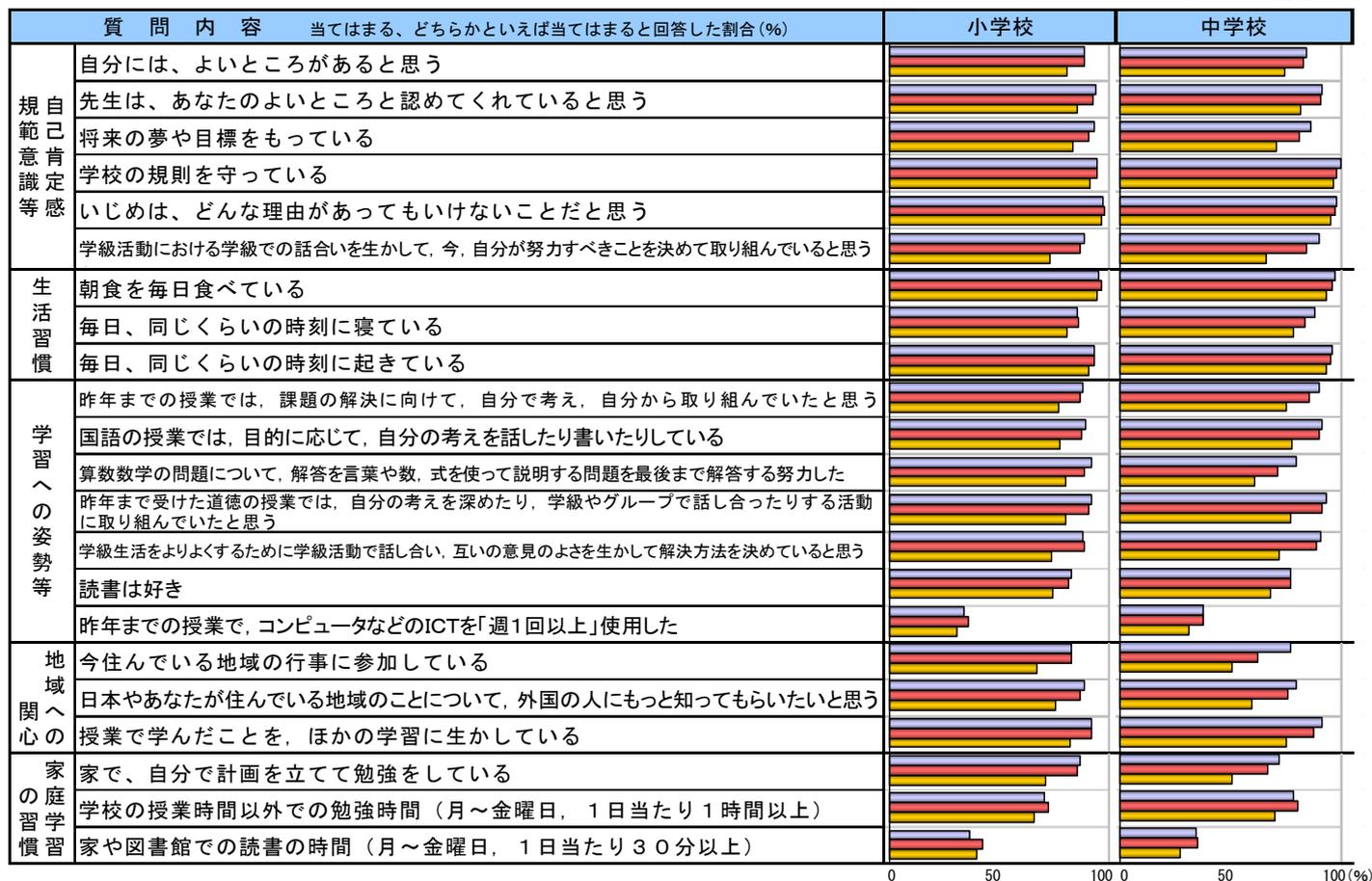
○中学校

- ・国語…全国、県の平均正答率と比較し顕著な差が見られる評価の観点は、「話す・聞く能力」「読む能力」「国語への関心・意欲・態度」であり、いずれも大きく上回っている。
- ・数学…同様に顕著な差が見られる評価の観点は、「数学的な見方や考え方」であった。また、問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」の全てにおいて県の平均正答率を上回っている。
- ・英語…同様に顕著な差が見られる領域は、「話すこと」であった。しかし評価の観点である「表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」は県の平均正答率を下回っている。

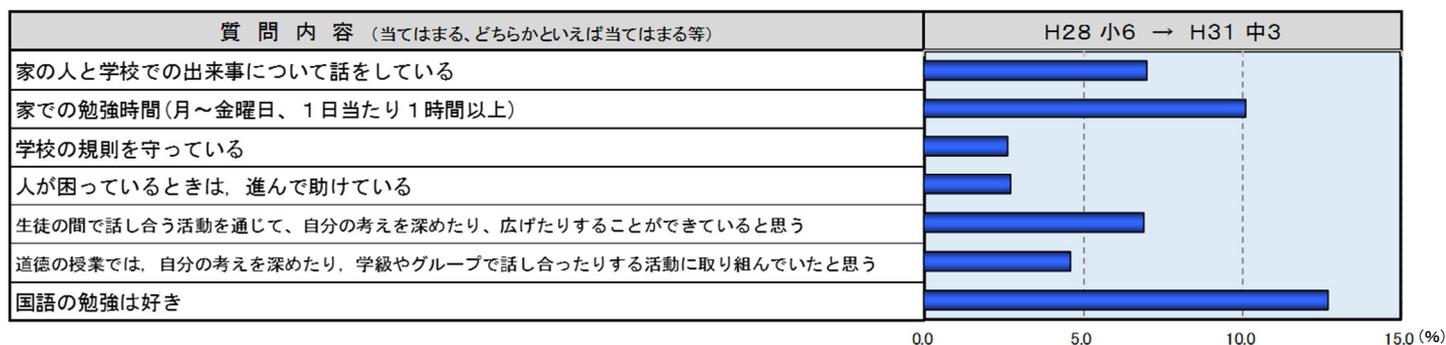
今年度から基礎知識を問うA問題と応用力を見るB問題の区別がなくなり、基礎知識と思考力などを一体的に問う出題に統一された。これまでの各小・中学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した課題解決型の授業づくりは、着実に児童生徒に学力を付けてきていると思われる。ただし、各教科に共通して、目的や意図に応じた記述に課題が見られることから、市教育委員会としては、基礎知識を思考力、判断力、表現力等に反映させるような単元づくりやカリキュラム・デザイン、幼保・小・中・高・大・地域の連携を踏まえた授業づくりを積極的に推進し、「総合的な学力」を身に付けた児童生徒の育成を目指して、各学校の取組を支援していきたい。

II 児童生徒質問紙（主な項目の全国、本県との比較）

大崎市 秋田県 全国



□中学校3年生が小学校6年生の時と比較して向上している主な項目



児童生徒質問紙より（主な特徴）

- 自己肯定感、夢や目標をもつこと、規範意識や道徳性等に係る項目で、小・中学校共に良好な状況にある。お互いを認め合う学習環境の中で、児童生徒が目標に向かって主体的に学んでいることの成果と捉えられる。
- 早寝、早起き、朝ごはんに代表される生活習慣に関わる項目でも、国の平均と同等か上回る良好な状況があり、家庭での子どもの意識付けや教育がなされ、また、学校との連携が図られていることがうかがえる。
- 授業では、「自分で課題を立て、情報を整理して調べたことを表現する」「課題の解決に向けて主体的に取り組む」「目的に応じて表現する」「あきらめずに論理的に説明する」「友達と学び合って自分の考えを深めたり広げたりしている」児童生徒の姿がうかがえる。「主体的・対話的で深い学び」につながる探究型授業（課題解決型の授業）が推進され、粘り強く学び続ける児童生徒へと育ててきていると捉えられる。
- 地域社会への関心が高く、地域や社会をよくしたいと願っている児童生徒の割合が、特に中学校で国や県の平均を大きく上回っている。「大仙教育メソッド」による、学ぶ意欲や豊かな心を育むための交流・連携を基盤とした体験活動を充実させた教育活動の成果と捉えられる。
- 中学校3年生の平成28年度小学校6年生時と比較した変容については、家族との会話や家庭学習の時間を確保するなど、家庭における時間を有効に活用しようとする傾向が見られる。また、規則を尊重する心や思いやりの心が醸成され、このことが学習にもよい影響を与えていると思われる。更には、学び合いを通じて考えを深め広げることができているという達成感や充実感においても伸びがあり、言語活動の充実による学力の向上に向けて小・中学校が連携し継続して取り組んできた授業改善の成果と捉えられる。

Ⅲ 学校質問紙（主な項目の全国、本県との比較）

大仙市 秋田県 全国

質問内容		よく行った、どちらかといえば行ったと回答した割合(%)		小学校	中学校		
教育課程	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
	近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
自己の醸成感	学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
学習指導 (規律・機会・方法等)	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
	各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
	道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
	学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っている	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
	総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
	特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行った	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
	大型提示装置(プロジェクター、電子黒板など)などのICTを活用した授業を1クラス当たり週1回以上行った	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
地域と連携の	平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有した	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
	保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
家庭学習	家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
	家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
職員研修	近隣等の小・中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国
	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んだ	大仙市	秋田県	全国	大仙市	秋田県	全国

0 50 100 0 50 100 (%)

学校質問紙より（主な特徴）

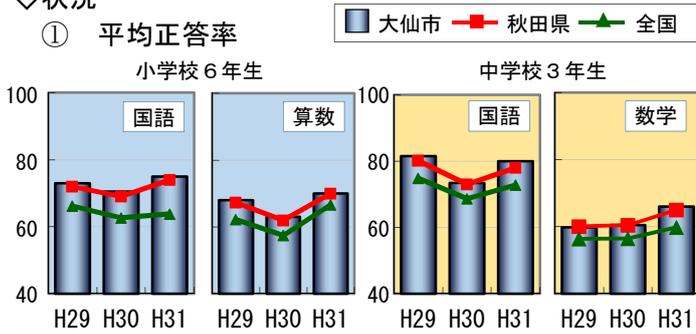
- 教育課程については、PDCAサイクルの確立、家庭や地域との情報の共有、小・中学校の接続を意識した編成など良好な状況にある。また、その作成については、教科横断的な視点からカリキュラム・マネジメントの充実を図っていることがうかがえる。
- 児童生徒に夢や目標をもたせ、よい点や可能性を見付けて褒めるなど、自己有用感の醸成に努めていることがうかがえる。ただし、児童生徒の意識とやや差があり、実態をふまえた支援が望まれる。
- 学習指導については、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が図られていることがうかがえる。児童生徒の特性に応じた指導やICTを活用した授業については、全国平均や県平均を下回っており、ICTの積極的な活用が更なる授業改善の糸口になると思われる。
- 地域や保護者との連携については、概ね良好な状況と考えられる。
- 家庭学習については、内容について校内の教職員で共通理解が図られている。家庭との連携について、小学校における学習方法等の例示は県平均をやや下回っているが、児童が毎日取り組んできた成果として既に定着が図られたものと捉えている。
- 職員研修については、小・中学校と合同で研修を行うなど連携が図られており、国や県の平均よりも非常に高い状況にある。ただし、小学校と中学校で意識に差があり、研修内容については検討の余地があると思われる。
- 本調査の結果分析については、当該学年のみならず学校全体で授業改善や学力向上に役立っていることがうかがえる。ただし、成果や課題の共有については小学校と中学校で意識に差があり、内容や方法については検討の余地があると思われる。

IV 過去3年間における本市の主な特徴

(1) 教科における調査結果から

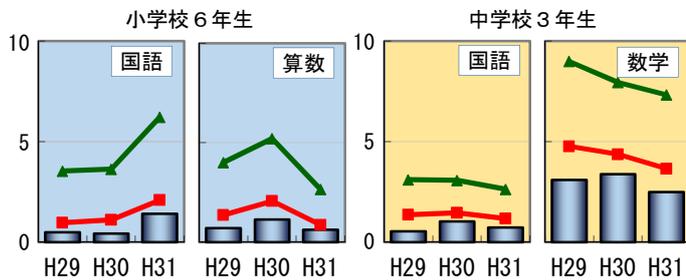
◇状況

① 平均正答率



◎小学校においては、国語・算数ともに国や県の平均と同等か上回る良好な結果である。中学校においては、数学も今年は県の平均を上回り、国語・数学ともに国や県の平均を上回る良好な結果となった。

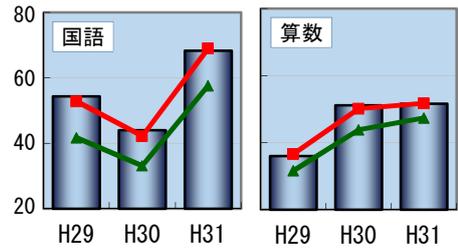
② 平均無解答率



◎小・中学校ともに国語・算数(数学)において国や県の平均を下回る良好な結果を続けている。

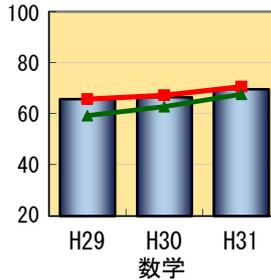
◇課題

(小学校) 記述式問題

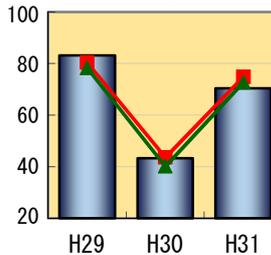


・国語・算数ともに記述式問題において、県の平均をやや下回る傾向にある。

(中学校) 国語



・国語においては、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が県の平均をやや下回る傾向にある。

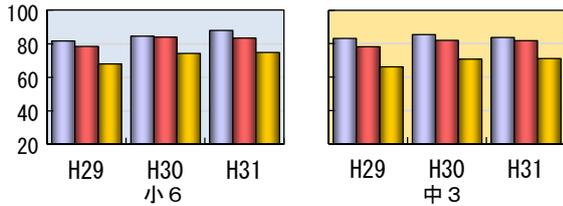


・数学においては、「確率の意味を理解している」「確率を求めることができる」の設問において、やや県の平均を下回る傾向にある。

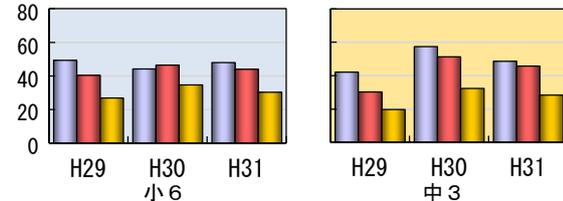
(2) 児童生徒質問紙から (「当てはまる」と答えた割合)

◇高い項目

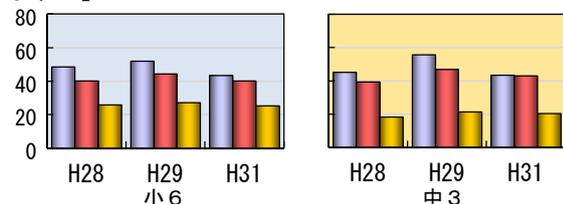
【人の役に立つ人間になりたいと思う】



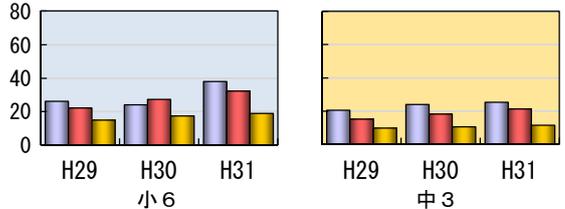
【学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか】



【総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか】



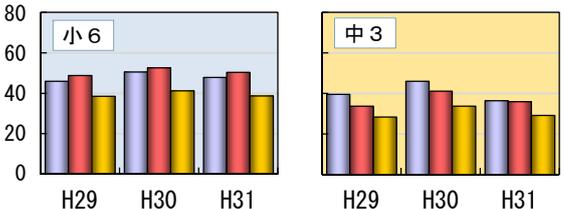
【地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか】



◎大仙教育メソッド「基礎となる力」「学ぶ力」「活かす力」「積極的つながり」にかかわる質問において、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合が、県や国の平均よりも高い傾向にある。

◇課題

【自分には、よいところがあると思いますか】



・小学校においては、「当てはまる」と答えた児童の割合が県の平均を下回っている。中学校においては、「当てはまる」と答えた生徒の割合が減少傾向にある。